

ハスカップ記録 後世に

苫小牧・NPOと美術博物館

分布調査や思い 出募集

【苫小牧】国内唯一のハスカップ群生地とされる勇払原野がある苫小牧で、地元のNPO法人と苫小牧市美術博物館が今月から、連携して植生調査や市民への聞き取りを始めた。ふるさとのシンボルの歴史と現状を体系的に記録し、後世に伝える狙い。「ハスカップの価値を捉え直し、市民の誇りにつなげたい」としている。

(苫小牧報道部 荒井友香)

北海道新聞 (夕)
2015. 06. 10



ハスカップ スイカズラ科の低木。黒紫色の甘酸っぱい実は6月下旬から7月にかけて食べ頃を迎える。現在は胆振管内厚真町や千歳市、美瑛市で栽培され、抗酸化作用のあるアントシアニンやビタミンCなどを豊富に含むことがテレビ番組で紹介されるなどして、人気が高まっている。苫小牧市の「木の花」(草の花はハナショウブ)でもある。



①栽培され、紫色に色づいたハスカップの実 ②昨年6月、胆振管内厚真町③苫小牧の群生地、木の陰になって枯れているハスカップを確認する草刈事務局長(右)と小玉学芸員

ハスカップは、かつて苫小牧東部で多く自生し、紫色の実は老舗菓子店の商品の材料や、おにぎりの具に使われるなど親しまれてきた。しかし、苫小牧東部地域(苫東)の工業開発に伴って1970年代から農地などへの移植が行われ、野生の群生地は縮小。現在は栽培が一般的になった。

調査は、苫東に残る群生地の保存を手がけるNPO法人「苫小牧」(代表者 小玉学芸員)と、同法人の草刈事務局長(右)と小玉学芸員(左)が実施している。

環境コモンズと同館が連携して行う。面積約1万7000坪の苫小牧東部では現在、約3割で群生が残り、残っていることが確認されているが、詳しい分布の範囲や植生などは把握されていない。同法人が衛星利用測位システム(GPS)を活用してこれらの状況を調べる。

「開発の中で力強く生きてきたハスカップの記録を残した」と、同法人の草刈事務局長(右)と小玉学芸員(左)が実施している。

また、聞き取り調査では、同法人が地域の高齢者らにインタビューして、かつての群生の状況などについて記憶の掘り起こしを進める。同館は「昔、おばあちゃんがジャムを作ってくれた」といった、ハスカップにまつわる思い出を広く市民から募る。

調査は、まずは本年度末まで取り組み、来年2月ごろ開く予定の企画展などで成果を発表する。草刈事務局長は「来年度以降も何らかの形で取り組みを続け、将来的には『ハスカップとわたし』『ハスカップの記憶』など本の出版にもつなげたい」と話している。